

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア！」

# Open the Door!

国立妙高青少年自然の家  
コミュニケーションマガジン

Vol.16

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立妙高青少年自然の家  
コミュニケーションマガジン

# Open the Door!

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

## Stay Gold

～いつまでも輝き続ける～

特集1 祝 開所30周年

特集2 R3年度実施事業紹介



独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2  
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325  
<https://myoko.niye.go.jp/>



Open the Door! Vol.16 令和4年3月発行



ごあいさつ

国立妙高青少年自然の家は、今年度開所30周年を迎えました。節目の年はコロナ禍ではありましたが、地域、行政、学校・園、関係機関、OB職員などの皆様のご協力のもと記念式典をはじめ、記念誌の発行、記念品の作成、30周年記念展示などの記念事業を行うことができました。祝賀会などの華やかなことや皆様への十分なおもてなしはできませんでしたが、式典では開所の頃からお世話になったご来賓の皆様にご出席いただき、励ましのお言葉を頂戴し、感激いたしました。また、記念式典の運営、記念誌の寄稿、周年事業の関連事業として開催した30周年記念感謝祭や全国青少年体験活動推進フォーラムなどにも、皆様からご協力をいただきました。この節目の1年間は、自然の家に尽力くださった多くの方々にお会いすることができたことが、私たち職員にとって財産となりました。

事業を進める中で、当施設が地域の皆様の強い願いがあって設立され、そしてたくさんの皆様に支え愛されて30年の道のりを歩んできたのがよく分かりました。事業の連携や協力、プログラムや活動場所の開発、青少年へ直接指導、施設整備や修繕、ボランティア活動、寄附金や寄贈など、いただいたご支援は計り知れません。皆様と一緒に作りあげた施設と言えます。

このように人にも自然にも、地域にも恵まれた環境の中で、当施設は時代に応じた課題解決に真正面から向き合い、挑戦しながら教育事業や活動プログラムを開発・提供してきました。代々自然の家に勤務した職員が、全国28の国立青少年教育施設の中で最後につくられた言わば集大成としての役割を自覚し、先駆者になろうという気概や誇りをもって挑戦してきました。

学習指導要領の趣旨を実現するためのプログラム開発・提供、妙高の森林や環境を扱ったみどりの学習、不登校・中1ギャップなど子供たちが抱える課題の解決を目指す体験活動の工夫、チャレンジ精神や自己肯定感を育む長期統合型キャンプ、遊びの中で様々な力を高める幼児のキャンプなど、全国の他の施設からも注目された事業がたくさんあります。また、青少年への直接指導だけでなく、指導者の養成や育成も行ってきました。また、大学生や高校のボランティアの養成とともに、ボランティアによる自主企画事業など、学びを活かす事業も展開し、式典のメッセージの発表者のような素晴らしいボランティアを輩出してきました。この30年間の事業の変遷は、このたび発行した「開所30周年記念誌」に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

このような伝統と歴代の職員の皆様の思いを受け止め、コロナ禍で十分な体験活動を行うことができない青少年が多い今こそ、社会の課題や青少年の今の実態に真剣に向き合い、未来を担う大切な全ての青少年に、課題やニーズに応じた質の高い体験活動が行き届くようにすることが、国立妙高青少年自然の家に与えられた役割ととらえ、努力する所存です。

どうか皆様、今後も変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。

国立妙高青少年自然の家所長 小林 朋広

MYOKO 祝! 開所30周年

平成3年に開所し、30年を迎えた国立妙高青少年自然の家。記念事業を行い、30年間のあゆみを祝いました。

妙高に「自然の家」ができるまで

昭和31年、元陸軍の演習地が妙高村に払い下げられました。これをきっかけに、妙高村では観光開発がさかんに行われるようになります。しかし、昭和50年、当時村長の岡本一郎氏が「将来この地域を背負っていく若者にできることはないか」と払い下げられた広大な土地を有効に使用したいと考えたのが自然の家設立に向けた大きな第一歩でした。岡本氏の考えに当時の村議会や地元の人々も賛同し、有効な活用方法の検討が始まります。内田氏は「自分達ではどうしていいかわからなかったのが新潟県（当時の上越支庁）に相談に行ったのです」と振り返り、自然の家が設立されるまでの経緯を話してくださいました。

上越支庁が提案したのは、当時日本全国各地に設置されていた「自然の家はどうか」ということでした。しかし、当時県内では同様のことを推進している地区が3か所（上越の南葉山、小千谷の山本山、魚沼の入広瀬）ありました。内田氏は村議会議員らと君健男知事、関昭一副知事に陳情に行くなど、新潟県の候補地になるよう精力的に活動します。関氏らによる現地視察会などを経て、妙高村は新潟県の候補地に選ばれました。その

あと、内田氏は3か所にあいさつに行き、激励を受けたと話しています。「どの首長も『妙高さん、頑張ってくれよ』と励ましてくれたのですよ。本当にうれしかった。同時にこれはもう私たちだけのものではない。新潟県の思いを背負っているのだ。頑張らないといけないと改めて思った。」

昭和54年、当時文部省では13番目の施設の候補として妙高村だけでなく、高遠（長野県）があがっており、妙高村は劣勢でした。妙高村は村議会議員を中心に特別誘致委員会を設立。委員会は毎月のように上京し、文部省や大蔵省へ高鳥修衆議院議員といっしょに陳情に回りました。当時文教部会長であった森喜朗氏のもとにも行ったといひます。しかし、劣勢な状況は変わりませんでした。もうだめかと思ったとき、高鳥氏の「（国会議員の田中）角栄さんのところに行ってみるか」という提案に、「わらにもすがる思い」で陳情団は会いに行くことを決めました。

田中氏は委員会の話を黙って聞き、うなずくと何件か電話をかけます。そして「明日もう一度来なさい」と言って席を立たれました。

翌日、田中氏から「（設立が）決まったから、安心して帰ってくれ。妙高は14番目をお願いしたい。自然の家の集大成として作るから安心してほしい。がんばってくれ」と言われたときは信じられなかったと語ってくれました。

急転直下の出来事に委員会は喜びを隠すことができませんでした。帰りの急行電車の中で祝杯をあげ、「あのときの味、おいしかったなあ」と内田氏は振り返ります。

その後は順調に計画が進み、自然の家が建設され、平成3年10月開始式、平成4年10月開所式が開かれます。岡本村長が誘致を決めてから、10年以上の月日が流れていました。

内田氏は、「この自然の家は、春は緑、夏は山・海、秋は紅葉、冬は雪と四季を通じて活動ができる。地域の住民としてこの施設がここにあることを誇りに思っている。村の小さな願いがここまで大きくなって感慨深い」「子供に体験活動をして得た知識を、助け合い、励まし合い、豊かな心をもって研修してほしい。そしてここでの経験をを通じて、豊かな人生を送ってほしい」と笑顔で語られました。



内田 進さん

妙高村企画観光課長在職時に自然の家設立に尽力。58歳から妙高村教育長として14年間活躍。妙高村が新井市と合併することにより退職。地元妙高の発展に力を尽くした。現在、妙高（関山）の文化財を語る会会長。





## 30周年記念式典

1 祝辞を述べる藤原総合教育政策局長 2 挨拶を述べる古川理事長 3 関山の仮山伏の棒遣いの演舞  
4 「体験活動の重要性」をテーマに講演する五十川初代所長 5 30年のあゆみ展 6 記念ボトル  
7 30周年記念誌

去る令和3年12月4日(土)に「国立妙高青少年自然の家開所30周年記念式典」を当施設のプレイホールを主会場にして、挙行了しました。

当日の式典には、藤原章夫文部科学省総合教育政策局長をはじめ、地元新潟県選出国會議員や県・市議會議員、運営協議会委員、上越地域の自治体や教育関係者、大学関係者、地元企業、元職員など、130人を超える方にご臨席いただき、30年の節目を盛大に祝いました。

まず、オープニングセレモニーとして、新潟県無形民俗文化財の「関山の仮山伏の棒遣い」の演舞と、30周年記念映像の上映が行われました。次に、所長の小林朋広が、「妙高青少年自然の家を30年間支えてきたすべての方の思いを受け継ぎ、質の高い体験活動が今後を担う青少年に行き届くようこれからも飛躍し続けていく」と式辞を述べ、古川和独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長から挨拶がありました。

続いて、藤原局長、高鳥修一衆議院議員、稲荷善之新潟県教育長(花角英世新潟県知事代理)、入村明妙高市長からご祝辞を賜りました。

その後、初代所長である五十川隆夫氏から「体験活動の重要性」をテーマに、国立妙高青少年自然の家の開所に至るまでの経緯や開所当初における施設や教育事業の運営方法の模索、今後の子供たち

に対する体験活動のあり方などについて講演していただきました。

最後に、青少年代表メッセージとして、地元妙高市立妙高中学校の中間響さんと新潟青陵大学の親跡優美香さんからメッセージを述べていただきました。

本間さんは、スキー体験をはじめとした国立妙高青少年自然の家の活動を通じて、人と人とのつながりについて考えて、人々とのつながりについて考えるきっかけになったと述べていました。また、親跡さんは、フレンドスクールや大学生になってから始めた法人ボランティアを通じて、他者と協力して二つのことを創造していくことの重要性について学ぶことができたことと述べていました。

式典は、終始和やかな雰囲気でも滞りなく行われ、参列いただいた方からは、「とても感動的な式典だった」「国立妙高青少年自然の家が行ってきた体験活動の重要性などを知ることができた」などの感想をいただきました。

今回の式典を通じて、職員自身も改めて国立妙高青少年自然の家が背負ってきた30年の歴史の「重さ」を知ることができたように感じます。

この「重さ」を忘れず、これまで国立妙高青少年自然の家を支えてきてくださったすべての方に感謝をし、次の30年、さらにその先の世代に引き継いでいけるよう決意を新たに努力をしていきたいと思えます。

## 30年のあゆみ

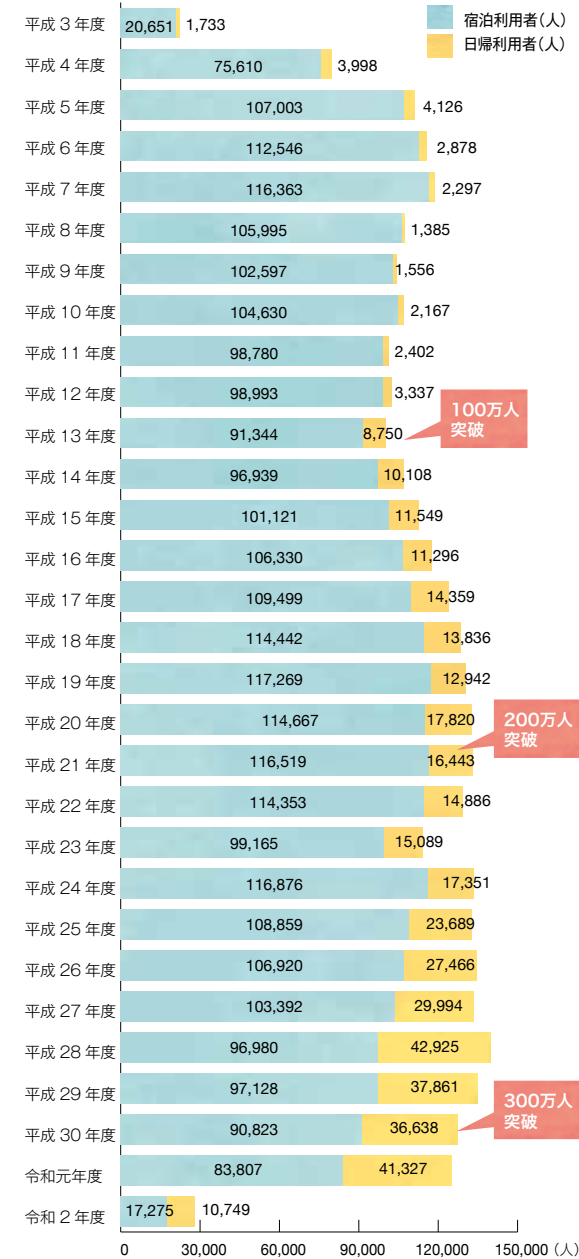
国立妙高青少年自然の家は、この30年間、300万人を超える利用者の皆様に、体験活動を提供してきました。地域のご協力のもと、広大な学びの場や数多くの良質な学習プログラムを開発した成果です。

開所の年の「雪国生活体験倶楽部」「子どもスキー指導技術講習会」「全国少年団体指導者研修会」を皮切りに、その時代のニーズや課題に応じた先進的な教育事業を絶え間なく実施してきました。子供や親子を対象とした試行的な体験活動、体験活動の指導者を対象とした研修会などの教育事業に参加し、その後の生き方に影響を受けた方も数多くいらっしゃいます。また、平成14年より長期キャンプが始まり、体験活動による子供たちの社会性の育成を研究してきました。

平成20、27年に地元妙高市をはじめ、上越教育大学、新潟青陵大学と連携・協力に関する協定を結び、地域の小中学校や大学生とのつながりが一層強まりました。妙高市が受け入れた東日本大震災の被災者の宿泊所にもなり、被災した子供たちに学習や体験を提供することもできました。

今後も、全国の多くの青少年に質の高い体験活動を与え続ける施設でありたいです。

### 宿泊・日帰り利用者数の推移



### 沿革

- 昭和54年12月 国立第14少年自然の家を妙高村に設置することが決定
- 平成2年10月1日 国立妙高青少年自然の家(仮称)設立準備室設置
- 平成3年4月12日 国立妙高青少年自然の家機関設置
- 12月1日 事業開始
- 平成4年10月12日 開所式 挙行
- 平成6年11月 スバルホール(天体観測棟)完成
- 平成7年10月1日 坪岳ハイキングコース開設
- 11月20日 第2野外炊飯棟完成
- 平成9年11月25日 仲間づくりの森環境整備完成(プロジェクトアドベンチャー、フィールドアスレチック)
- 平成13年4月1日 独立行政法人国立少年自然の家 国立妙高青少年自然の家に移行
- 7月13日 利用者延べ100万人達成
- 11月8日 開所10周年記念式典挙行
- 平成18年4月1日 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家に移行
- 平成20年2月15日 国立大学法人上越教育大学と連携・協力に関する協定を締結
- 平成20年10月31日 妙高市と連携・協力に関する協定を締結
- 平成21年10月30日 利用者延べ200万人達成
- 平成23年3月24日 東日本大震災の被災者受入れを開始
- 平成23年10月10日 開所20周年記念式典挙行
- 平成27年5月12日 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学と包括連携協定を締結
- 平成30年8月1日 利用者延べ300万人達成
- 令和2年2月28日 新型コロナウイルス感染への対応に関する文部科学省からの要請により5月20日まで利用団体の受入休止
- 令和3年12月4日 開所30周年記念式典挙行



第1分科会

幼児期の自然とのふれあい・遊び・体験と学びの接続



コーディネーター：小菅 江美氏 (NPO 法人緑とくらしの学校 理事長)

事例発表：塩原 基寧氏 (国立赤城青少年交流の家 主任企画指導専門職) 笠原 千鶴留氏 (ときわ保育園 園長)

内容：参加者が自然の家で豊かな体験活動を実施していたので「接続」をテーマとした。保育者たちによる園での日常生活と自然の家などでの非日常の生活を接続する役割が大切である。保育者たちが子供の変容に気づき、共有する。保育者の意識や子供たちの見取りが、様々な体験活動の質を高めている。

第2分科会

小中学生期の自然や人との関わり方



コーディネーター：小林 朋広 (国立妙高青少年自然の家 所長)

事例発表：百瀬 篤志氏 (国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職) 川口 弘泰氏 (新潟県少年自然の家 社会教育主事)

内容：体験活動を実施する場合、様々な体験をさせるのが目的ではなく、活動のねらいを明確にしてゆとりをもって体験活動を提供することが質の高まりにつながるのではない。学校で様々な体験活動を実施する場合、地域や関係機関、子供会だけでなく敬老会などと連携し、地域の方の力を借りて実施することが効果的。個に応じた体験活動を提供していくことが重要。

第3分科会

青年期における社会とのつながり - 想いをカタチにする方法 -



コーディネーター：渡辺 径子氏 (上越教育大学 准教授)

事例発表：加藤 清佳氏、加藤 みなみ氏 (新潟青陵大学 学生ボランティアコーディネーター) 都築 則彦氏 (NPO 法人おりがみ 理事長)

内容：学生ボランティアコーディネーターとして行ってきた活動が、コロナ禍で実施できなくなってしまった。しかし、自分たちのスキルアップ、顔を合わせること、歩みを止めないことを目標に活動を続けてきた。その結果、つながりを作っていくことが大事であることに気付いた。自身の活動を通し、青年期の社会とつながる必要性、自分がバトンを繋ぐ意味を考えるようになった。若い人たちの熱い想いを聞き、Well-being な世界を作っていくほしい。

第4分科会

企業による学びの応援 - 子供たちの未来のために -



コーディネーター：中野 充氏 (新潟青陵大学 准教授)

事例発表：鹿島 真由美 (国立妙高青少年自然の家 主任企画指導専門職) 増田 てつ志氏 (新潟県立海洋高校 校長)

内容：県立高校では営利を追求することはできないが、企業の人にも入ってもらい様々な商品開発をしたり「本物の体験」をしたりすることがとても重要である。求める側(学校)と提供する側(企業)のマッチングができるようになること、さらに体験の幅が広がってくる。AI時代において、体験活動をすることで、想像力、個性、感性が研ぎ澄まされ、AIに負けない子供たちになる。

推進委員会

- 委員長 明石 要一氏 (千葉敬愛短期大学 学長)
委員 小菅 江美氏 (NPO 法人緑とくらしの学校 理事長)
小林 智氏 (新潟県教育庁生涯学習推進課 課長)
中野 充氏 (新潟青陵大学 准教授)
小林 朋広 (国立妙高青少年自然の家 所長) \*事務局

なお、鼎談の様子は、こちらからご覧いただけます。 https://youtu.be/yUKnneDWCT0



R3年度実施事業紹介

01 全国青少年体験活動推進フォーラム



近藤 真司氏



明石 要一氏



平野 有海氏



コーディネーター 左から 小菅 江美氏 小林 朋広 所長 渡辺 径子氏 中野 充氏

令和3年11月6日に、文部科学省委託事業「体験活動を通じた青少年自立支援プロジェクト」として、「全国体験活動推進フォーラム」を開催しました。テーマは、「With コロナ時代における体験活動の質の高め方」で、「コロナ禍において子供たちに十分な体験活動を提供できない現状があるため、発達段階に応じた体験活動の重要性について理解を深めるとともに、With コロナ時代体験活動の実践について検討し、全国に普及啓発することが趣旨でした。第1部の鼎談では、「体験活動のススメ〜With コロナ時代における体験活動の質の高め方〜」というテーマで、講師の明石要一氏(千葉敬愛短期大学学長)、近藤真司氏(一般財団法人日本青年部公益事業部「社会教育」編集長)、平野有海氏(気象予報士)から、貴重なお話をいただきました。3名の講師の今までの経験や研究、調査などに基づく意見「幼少期からの体験は大人になってからのよりよい生き方や考え方に繋がること」「体験格差をなくすこと」「道草や年中行事、お祭りなど、子供たちが集まって体験することが成長につながる」と「社会教育の中でもICTを活用し、ライブ中継など同時多発的に体験活動を行うこと」「協働的な学びだけでなく、個別最適な学びの視点をもって体験活動を提供すること」などは、参加者が重要ととらえ、第2部の分科会では、話し合いが行われ、意見が出されました。最後に当フォーラムの推進委員長明石要一氏から、次のような全体講評をいただきました。
○どの分科会でも「つながり」を大切にしていた。幼児と小学校、施設と企業・学校と企業、大学と大学など、社会教育も単体で実施することは難しくなってきた。強みと弱みを活用しながら繋





### スノーシューハイク

真っ白な雪原の中を、スノーシューを履いて探険に出かけます。

秋に葉を落とした樹木の冬芽の中にはサルの顔みたいな形をしたものもあり、楽しく学べます。雪に残された動物の足跡を追跡していくと、樹木をかじった跡に出会い、冬の食べ物を想像することができます。厳しい冬を越す動物たちの暮らしを想像します。運がいいと、雪の上を走り抜けるウサギに出会えるかもしれません。



みどりの学習で子供たちは「ホンモノ」の自然に触れながら学び、四季折々の動物との出会いや五感を通して感じた気付きから、観察力と感受力を高めます。こうした豊かな「ホンモノ」体験が、子供たちの学びに向かう力、人間性の育成に大きく寄与します。

### 藤巻山登山

藤巻山の標高は945m。保育園児から大学生まで自然観察しながら登山を楽しめます。

山頂周辺はブナが生い茂り、ブナの木陰と吹き抜ける風の心地よさを感じます。

「ブナ林の土はどのくらい水分を含んでいるのかな。」子供たちは力を合わせ、ブナの下の方のふかふかの土を掘り、持ち帰りました。学校で土を乾燥させ、含まれていた水分の重さを調べると… 観察だけでなく実験もできます。



### 秘密基地づくり

森の中に自分たちの秘密基地や遊び場が作れたら… 完成した秘密基地の中でお弁当を食べたり、昼寝をしたりできたら最高ですね。

ほかのグループが作った秘密基地を回る「お宅訪問」も楽しいです。



### 源流探険

敷地内に流れる沢の中をジャブジャブと歩きながら、上流を目指します。

夏でも冷たい川の水の不思議や、水生生物や水辺を好む様々な植物の生態、川の始まりを調べることができます。

川底まで見える水の清らかさ、流れる水の音の美しさ、自然の素晴らしさを全身で感じながら行う学習は最高の思い出にもなります。



### 森探険

自然の家の森では、森の植物や動物たちとの出会いがいっぱいです。

「この赤い花は何?」「どうして木が曲がっているの?」「面白い形の葉っぱがあるよ!」

子供たちの気付きや発見を学びにつなげます。

4月、まだ雪が残る森の中で可憐に咲くショウジョウバカマ。5月、キュウリみたいな樹皮が特徴のウリハダカエデの雌花と雄花。10月、頭の上に咲く可愛い花クサギ… その時期にか出会えない一期一会の出会いと学びの場です。



1. 藤巻山 (前・パート2)  
 楽しかった!!! (わしい)と、花言葉が私にこんなにもあつた(すごい)と思いました。私は幸福な空のシウジョウバカマや大時草や森にこんなかきや花言葉あつたんておもしろい。いろいろなことかあつた。森が私に何を教えてくれたのか。森の心に残りました。  
 おんねで行った春のうたが心に残りました。

思ったこと・考えたこと  
 福牛(うし)の子孫をたどるために人やまがきや、くついでいどうするわけないから動物(うし)もまがきがあるかと思いました。



# 02 みどりの学習

みどりの学習は、国立妙高青少年自然の家が提供する森林環境学習です。春夏秋冬、森での体験活動を通して学習を行うことができます。本学習の主な活動プログラムを紹介いたします。



# 03 チャレンジ キャンプ 2021

妙高で見つける新しい自分

「チャレンジキャンプ2021」は、国立妙高青少年自然の家を拠点に、海や山へ移動しながら、いろいろなチャレンジを乗り越える統合型キャンプです。小学5年生から中学2年生の男女12名が、それぞれ自分の力でやり抜くことに加え、一人一人違う個性をもつ仲間と関わり、互いに助け、励まし合いながら、チャレンジに臨みました。

このキャンプは、本キャンプの7日間に事前キャンプの2日間を加えた計9日間を「5つのステージ」で構成し、それぞれのステージで「目指すこと」を子供たちとスタッフが共有しながら進めていきます。

事前キャンプは「準備のステージ」として、参加者が安心して本キャンプに臨めるように、必要な構えやスキル（山の登り方、自転車の乗り方、テントの設置、野外炊事など）を学びました。すぐに仲間と打ち解け合う子供たち。保護者も一緒に参加し、キャンプの説明を聞いたり、子供たちの頑張りを見守ったりしました。

いよいよ本キャンプ。子供たちだけで行う野外炊事から「出会いのステージ」がスタート。仲間と役割を分担し、調理しました。2人で1つのテント設置もスムーズに行います。「挑戦と交流のステージ」チャレンジ1つ目は、自転車で日本海まで移動します。真夏の暑さと戦いながら無事にみんなでゴール。海では、チームビルディングを意識したメカサップを行いました。日本海に沈む夕日をみんなで眺めてから、えちごトキめき鉄道の電車に乗って自然の家へ帰着。2つ目のチャレンジは、笹ヶ峰キャンプ場まで自転車で移動するビッグチャレンジです。坂・坂・坂。上り坂を自転車で乗って上る子、自転車を押しながら少しずつ上る子。予定よりも大幅に時間がかかりましたが、全員が笹ヶ峰キャンプ場に着いたとき、本キャンプ3日目にして仲間と一緒に乗り越えられた達成感を味わいました。頑張ったみんなにスタッフからおもてなし料理が振る舞われました。3つ目のチャレンジは、シャワークライミング。水の冷たさと流れの強さに負けずに進みました。

火打山・妙高山を縦走る「超戦のステージ」では、山を越え、自分を超える最終チャレンジとなります。出発の朝、みんなで円陣を組んでからスタート。途中、歩みが止まってしまいう仲間を励まし、一緒に山頂を目指しました。すべてのチャレンジを終え、どの子も誇らしげな表情を浮かべながらゴールしました。

「自信のステージ」の閉会式では、頑張った自分・成長した自分を振り返り、保護者の前で堂々と発表しました。充実の9日間でした。



7/10-11 [SAT] [SUN]



DAY 4

DAY 5



8/6 [FRI]



8/9 [MON]

DAY 8

DAY 9

GOAL!!!

自信のステージ

超戦のステージ

挑戦と交流のステージ

出会いのステージ

準備のステージ

START



8/8 [SUN]

8/7 [SAT]

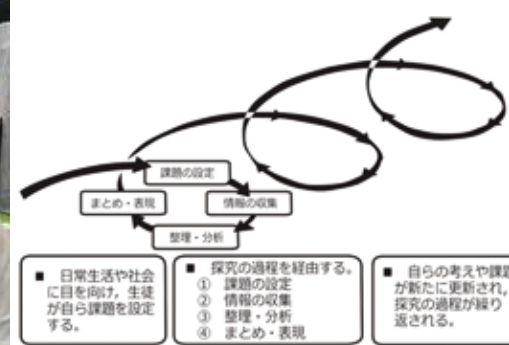


8/5 [THU]



8/3 [TUE]





# 04

探究



体験

高校生の力が、地域の力に

## 「地域探究プログラム」

「地域探究プログラム」は、令和元年度から全国の高等学校で始まった「総合的な探究の時間」の手法を取り入れ、探究のプロセスと体験活動を掛け合わせた新たな事業です。高校生を対象としており、探究のプロセスを学び、地域貢献活動を実践する「地域探究トライアル」と、実践活動を発表し、その活動の顕彰を行う「地域探究アワード」の2つのプロセスで構成されています。

はじめの一步となるオリエンテーション合宿では、妙高の周辺地域で地域貢献に関連した様々な活動を行っている方々にご協力いただきました。今年に参加者が3つのコースに分かれて、地域の交流拠点となる野菜の直売所運営体験や、鳥獣被害から地域を守る駆除対策員の仕事体験、大規模農場と小規模農場の現状を知るための農業体験を行いました。体験を通して見出した地域の課題を解決するための仮説を考え、他のグループと共有することで学びを深めました。参加者からは、

「私はこれからの進路に強く繋がると思っている合宿に参加しました。地元のことを知ってあらゆる問題を解決に向けてということ難しいことがほとんどだけど、この合宿でたくさん学ぶことを自分でこんなことをしようと考えていることができ、とても充実していました。」

「普段はできないような活動を沢山できてとても役に立ちました楽しかったです。」

違う学校の人も関わることができたので良かったです。参加して良かったなと思いました。」

といった声が聞かれました。

次に、高校生は自分の生活している地域の課題について考え、それを解決するための仮説を考えました。そして、実践活動を計画し、実行していききました。今年の事例としては、「農業バイトの実現に向けて」というテーマで農業体験を行ったグループや、「糸魚川に残る梅海新道の保全」というテーマで登山道整備を行ったグループがありました。

顕彰制度に挑戦し、地方ステージという審査会で発表した高校生もいました。緊張しながらも自分たちの熱い思いをプレゼンテーションすることができました。「忙しい中でも離れたところで2人で協力してプレゼンを作り上げることができたのでうれしかったです。」

「学校では調べてまとめるところまでしかできないが、このプログラムに参加して実際に様々な人と関わり、自分の力で実践までできるところがとても充実していた。」

実践活動を終え、発表を経験した高校生の言葉です。

高校生の力が、そのまま地域の力になる「地域探究プログラム」。ホンモノの体験からたくさん学ぶことができる事業です。



# 05

## 『子どもゆめ基金20周年記念事業』

### キッズアドベンチャー

子供たちの健やかな成長にとって体験活動が大切であることを伝え、妙高の豊かな自然に触れる自然体験活動の機会を提供することを目的とした事業です。幼児を対象として、親子が日帰りで気軽に参加していただけるように企画しました。

夏の「源流探険」は、約16℃の冷たい水が流れる川の源流をたどりながら、岩や木などの障害物乗り越えたり、水に住む生き物たちに出会うたりしました。冬は「深雪探険」というふかふかの雪が積もった森の中を探険する活動と、ダイナミックなコースのそり滑り、そして夜には幻想的な雪灯ろうを楽しみました。

●登録制度・応募スケジュール  
「自然」や「体験活動」、「ホンモノの体験」に興味や関心を持っている親子に情報を届ける方法として、事前の会員登録制をとりました。  
会員登録は通年で受け付けています。イベント開催のお知らせを登録済みのメールアドレスにお届けし、その上で参加申込みを受け付けました。

### お申込みの流れ

#### 1. 会員登録

まずは、会員登録。登録・入会は無料です。



#### 2. イベントのご案内 (メールにて送付)

イベントの1~2か月前に案内送付。(タイムスケジュールなどの詳細案内[PDF形式])受信可能なアドレスが必要です。

#### 3. お申込み

応募多数の場合は抽選など実施します。

イベント当日お待ちしております!



### 参加者の声

冬の事業だけでなく、夏の事業にも参加してみたいになりました。

普段なかなか行けないところを歩くことができ、おもしろかったです。

天気もよく、いろいろなそりがあり、子供がたくさん楽しめました。

とても楽しかったです。大学生スタッフも親切で良かったです。

7組の参加がありました。午前中は職員が先導して深雪探険、午後はそり滑りや雪あそび、夕方からは雪灯ろうを楽しみました。深雪探険では足の付け根まで埋まりながら身体一つで飛び込んで、やわらかくもあり硬くも感じる雪を、全身で味わいました。そり滑りでは、チューブそりや肥料袋などを使って滑り方を工夫して楽しみました。雪灯ろうづくりでは、暗い雪原に灯るロウソクの明かりの温かさを感じることができました。

### 冬の活動



受付	9:30
【午前の部】 深雪探険	10:00
着替 解散	11:00
受付	12:30
【午後の部】 そり体験	13:30
着替 解散	14:30
受付	15:30
【夜の部】 雪灯ろうづくり	16:30
鑑賞 解散	17:30

### 参加者の声

自分でできる!というチャレンジ精神が見て取れました。

整備されて安全に楽しめました。もっと上流を目指したかったようです。家に帰ってからも、ワクワクしたことを振り返りました。

川の虫はなかなか普段見られないので、印象に残っているようです。生き物のことまで教えていただけたので、とても嬉しかったです。

自分で決めて自然とかがわったことで、親の手を借りずに進んで歩いていて驚きました。子供が変わる瞬間に自然の力の大きさを感じました。

### 夏の活動

午前と午後、それぞれ3グループに分かれて23組の参加がありました。スタッフが先導して進み、源流の冷たさに驚きながら、水の流れを乗り越えていく達成感を味わいました。また、普段出会うことのない水生昆虫探しに夢中になり、大きなカエルやセミの抜け殻に触れてみる体験もすることができました。



受付	9:30
【午前の部】 源流探険	10:30
着替 解散	11:30
受付	13:00
【午後の部】 源流探険	14:30
着替 解散	15:00





## 06 防災・減災教育 i n 妙高

この「防災・減災教育 i n 妙高」では、国立妙高青少年自然の家でできる防災・減災学習を小・中学校の先生方に体験していただきました。

### 火山学習

妙高山はどうやって今の大きさ、形になったのか。小学校5年生理科「流れる水のはたらき」と6年生理科「大地のつくり」と関連させながら学習します。

国立妙高青少年自然の家敷地内で火山堆積物の露頭観察を行い、岩石観察やハンマーの使い方も研修しました。噴火実験では、噴火で変わる地形や火山灰の散布状況について考えました。

また、火山灰に含まれる角閃石やシロ輝石などの鉱物を観察し、標本を作りました。

参加された先生方は「ホンモノ」で学ぶことの学習効果を実感されていました。



## 07 妙高自然体験活動指導者養成研修

自然体験活動の指導者として幅広い知識と技術を持ち活躍できる人材の育成を目的とした妙高自然体験活動指導者養成研修を実施しました。夏季は5月21日～23日、冬季は1月8日～10日に行いました。夏季・冬季ともに基本講習ということで妙高での自然体験活動の概要や指導者としての心得について学びました。また、子供との接し方について学校現場での事例をもとに特別支援教育のスペシャリストを講師としてお招きしてお話を聞くことができました。安全管理については、大学や専門学校で様々な経験を積まれている講師の方々から貴重なお話を聞くことができました。そして、夏季では妙高アドベンチャー・源流探検・森探検、冬季には雪洞づくり・スノーシューハイイク・深雪探検などの魅力的な活動プログラムの研修も行いました。自然の中での活動や体験活動に興味がある方は、ぜひ妙高で指導者を目指してみませんか！

## 避難所体験/地滑り資料館の見学

妙高市役所危機管理室防災係の職員の方を講師に招き、2年前に妙高市内で避難所開設した際のお話をお聞きしたり、避難所で実際に使用される段ボールベッドやパーティションの体験を行ったりしました。

また、国立妙高青少年自然の家から車で30分ほどの上越市板倉区には、日本で唯一の地滑り資料館があります。そこで、地滑りや雪崩をはじめ、様々な自然災害について学びました。

身近な所で起こった事例を学び、日頃から「もしも」の災害に備えておくことの重要性を学びました。



### 災害食調理

野外炊事でよく作られるカレーライスを調理しました。ポリ袋の中に米と水、野菜・肉・水・カレールーを入れて湯煎します。鍋の水は汚れないので、洗いや次の調理に再利用できます。

皿も汚さないように、サララップを敷いてカレーライスを盛り付けました。

国立妙高青少年自然の家で多くの方に体験していただいている野外炊事も少し工夫することで、防災・減災学習ができます。



## 08 自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修

「自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修」は、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を養成する研修です。受講後には試験が実施され、リーダー、インストラクター、コーディネーターと段階的に資格を取得することができます。国立妙高青少年自然の家をフィールドに、自然体験活動の専門的知識や技術に長けた講師の方々から指導を行いました。参加者は、指導者としての心得や野外炊事、ナイフワークの技術、安全管理などについて実技を踏まえながら講義を行いました。学校の教員や学生、指導者を指導する方など様々な方が参加し、アイスブレイクやグループワークを通して活発に意見を交わし、楽しみながら学ぶ姿が見られました。参加者からは、「体験活動の意義を実感しながら学ぶことができた」「研修で感じた自然体験活動の楽しさを、今度は指導者として子供たちに伝えたい」などの声が寄せられ、充実した研修となりました。



### 日程表

期日	時間	内容
8/28(土) 1日目	9:00~ 9:30	■受付
	9:30~10:00	■開会式・ガイダンス(0.5h)
	10:05~11:35	■青少年教育の体験活動(1.5h)
	12:30~15:30	■自然体験活動の安全管理(3h)
8/29(日) 2日目	15:45~20:30	■自然体験活動の技術①
	8:30~11:30	■自然体験活動の特質(3h)
	12:15~13:45	■対象者理解(1.5h)
	13:50~15:20	■自然体験活動の指導(1.5h)
	15:25~17:25	■自然体験活動の技術② (①、②併せて6h)
	17:30~18:00	■ガイダンス(0.5h)
	18:00~18:30	■認定試験(0.5h)
	18:30~18:45	■閉会式





日本を代表するプロトレイルランナーである石川弘樹さんを講師にお招きし、親子トレラン教室を行いました。国立妙高青少年自然の家や斑尾（希望湖・毛無山周辺）などをフィールドとし、整地されていない道を走るときに体の動かし方を学んだり、五感を使って自然の中を走ることの気持ちよさを感じたりしました。また、石川さんから様々な話を聞き、自然について興味を広げるとともに、トレイルの環境についても考えるいい機会となりました。

## 12 親子トレラン教室

10月30日(土)～31日(日)



1日目は自然物を使ったクリスマススクラフトに挑戦し、妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会の協力のもと、藁から縄を作りクリスマススリースにしたり、松ぼっくりでクリスマスツリーを作ったりしました。2日目には楽しくXmasケーキやクッキーを作りました。親子でゆつくりと過ごすことができた冬の2日間は、皆さんの笑顔にあふれ、アイデアいっぱい！のお土産がたくさんできました。

## 13 親子でXmasケーキ作り

12月11日(土)～12日(日)



小学生40名が参加し、クラフトや冬ならではの自然体験活動を行いました。クラフトでは、妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会と連携し、タイルを敷き詰めて作るコースターづくりに挑戦しました。タイルを思い通りに敷き詰め、世界にひとつだけのコースターを作ることができました。雪上での自然体験活動は法人ボランティアである大学生が中心となって考えました。仲間と協力して雪のお城を作ったり、冬の夜を目や耳、肌で感じ取るナイトオリエンテーリングをしたりしました。天候にも恵まれ、子供たちの笑顔が溢れるはね馬キャンプ in 妙高となりました。

## 14 はね馬キャンプ in 妙高

1月15日(土)～16日(日)

## 09 30周年記念感謝祭

10月9日(土)～10日(日)

感染症対策に留意しながら2年ぶりに開催された30周年記念感謝祭。

オリンピックメダリストによるフエンシング体験教室やツリークライミングをはじめ、多くの体験ブースに参加者の笑顔が溢れました。「ステキなクラフト作品ができたよ!」「初めての体験活動に挑戦したよ!」大人も子供も時間を忘れて楽しんでいました。

当施設は利用者、協力団体、ボランティアの皆様に支えられてきたことを改めて実感し、感謝の気持ちを深めました。



## 10 信越トレイルキャンプ

6月5日(土)～6日(日)

NPO法人信越トレイルクラブに協力していただき、初日は座学で「自然に負荷をかけずに楽しむ」をコンセプトに非常食のバックパックに挑戦しました。2日目のトレッキング本番も天候に恵まれ、ガイドの方から植物の特徴や動物の足跡などを教えてもらいながら、楽しく歩くことができました。



## 11 トキ鉄でGO!

11月6日(土)～7日(日)

株式会社えちごトキめき鉄道に協力いただき、貸切車両を調達。車内では、妙高はねうまラインの歴史や魅力をスタッフさんから教えてもらい、直江津D51レールパークでは蒸気機関車に実際に乗車、地域の鉄道について学びました。お昼はホテルハイマートで日本の駅弁に舌鼓。大興奮の1泊2日でした。





NO	事業名	SDGs との関連
1	チャレンジキャンプ2021・事前キャンプ チャレンジキャンプ2021	1, 4, 17
2	MYOKO ボランティアキャンプ	3, 4, 8, 17
3	妙高自然体験活動指導者養成研修 夏 妙高自然体験活動指導者養成研修 冬	3, 4, 8, 15, 17
4	キッズアドベンチャー① (幼児源流体験会) キッズアドベンチャー② (幼児深雪体験会)	3, 4, 17
5	防災・減災事業	3, 4, 9, 11, 17
6	(生活・自立支援キャンプ) (生活・自立支援キャンプ)	1, 3, 4, 17
7	自然体験活動指導者 (NEAL リーダー) 養成研修	3, 4, 8, 17
8	ボランティア育成プロジェクト① ボランティア育成プロジェクト② ボランティア育成プロジェクト③ 集立ちの会	3, 4, 8, 17
9	地域探究プログラムオリエンテーリング合宿	1, 3, 4, 11, 12, 17
10	特色あるプログラム事業「みどりの学習」	1, 3, 13, 14, 15, 17
11	信越トレイルキャンプ	3, 4, 15, 17
12	つながろう はね馬キャンプ IN アグリパーク	2, 3, 4, 15, 17
13	つながろう はね馬キャンプ IN 妙高 (ボランティア育成プロジェクト企画)	3, 4, 17
14	感謝祭	3, 4, 17
15	親子トレラン教室	3, 4, 15, 17
16	トキ鉄で GO!	3, 4, 15, 17
17	親子で Xmas ケーキ作り	3, 4, 17

※ No.6 は中止

### 教育事業とSDGsとの関連

左の表は当施設の令和3年度事業概要です。各教育事業がどの目標と関連するものかを明確にしました。各教育事業がSDGsのどの目標と関連しているかを明確にすることで、各教育事業の目的がより明らかになり、SDGsへの関心が高いZ世代(19〜26歳)に向けて、教育事業に参加する意欲を高めることにつながりました。参加者が17のゴールを意識できるような工夫を行いました。

# SDGsの取組

地球規模の問題と向き合うため、世界共通の目標として策定されたSDGs。近年、日本国内でも急速に認知度が高まっているなか、SDGsを達成すべく多くの企業や団体が自主的な活動に取り組みんでいます。国立妙高青少年自然の家では、SDGs達成への貢献とESD(持続可能な開発のための教育)の推進に焦点をあて、以下のような取組を行いました。

### SDGs館内オリエンテーリング



館内プログラムとして小中高生やファミリーを対象に「SDGs館内オリエンテーリング」を行っています。グループで協力して地図に記された9つのクイズパネルを探し、そこにあるクイズを解き進めていくプログラムです。クイズを解くヒントとして、館内に設置してある17のゴールに沿ったヒントパネルを活用しながら、ゲーム感覚でSDGsについて理解を深めることができる内容となっています。

昨今、SDGsというワードをよく目にするようになりました。しかし、「なんとなくSDGsの名前は知ってはいけれど、その意味や具体的な内容は知らない」という方も多いのではないのでしょうか。SDGsとは何なのか、世界でどのような問題が起こっているのかなど、SDGsについて、まずは知ってもらおうきっかけを作りたいという思いから、このプログラムを開発しました。この活動を通して、SDGsについての理解が深まったり、自分事として考えたりしていただくと嬉しいのです。



### 端材クラフト

端材を再利用したクラフト体験「はさいであそぼう」を行っています。この活動では、色々な形や模様、大きさの端材を自由に組み合わせさせてオリジナルの作品を作ることができます。活動の場面では、思い思いの趣向を凝らした作品が並び、子供から大人まで多くの方が作品づくりを楽しむ姿が見られました。この活動は、ものづくりの楽しさや自分の思いを形にする楽しさを味わったり、資源を大切に使うことや環境を守ることなどを意識したりするきっかけになってほしいという思いから開発がスタートしました。材料となる端材は、地元企業の「浜田材木店」から提供していただいております。「日々出る端材が、そのまま捨てられるのはもったいない」「子供たちに本物の木の温もりやよさを感じてほしい」という職人さんの思いのもと、ご協力をいただいています。参加者からは、「端材は色々な形があるから、組合せ方で作るものの幅が広がって楽しかった」「捨てるはずだった木が、生き生きしているように感じた。木を使い続けることが大事だと感じた」などの声が寄せられ、魅力あるクラフト体験となっています。



### 協働によるSDGsへの取組

妙高市と協働を図りながらSDGs教育交流プログラムを2回実施しました。1回目はさいたま市と妙高市の小学生が、現地の環境を通して「地球温暖化防止」について現地調査をしながら、自分自身が身近にできる防止策などについて考え、発表をしました。ZOOM接続により、異なる地域での具体的な取組状況を理解することで様々な学びを得ることができました。2回目は、「ごみ問題を考え行動する」をキーワードに学びました。オンラインにて徳島県上勝町での実践事例を大塚さんから学びました。「ゼロ・ウェイスト宣言」を行っており、ごみの分別やリユースなどについて、町民一人ひとりがごみを生活から出さない取組について理解を深めました。参加した子供たちは、「小さなことでもできるごみ問題への対応を自分事として考え実行したい」と話していました。



### 参加者アンケートより

- 今回参加してみて、妙高の人とつながって学習すること身の回りからCO2削減につながっているものを探るのが楽しかったし、結構あったのですごいと思った。
- さいたまと交流できて楽しかったです。
- 自分の意見を数十分までまとめて発表するのは大変だったけど今回の学習で世界がどのように変わっているのかわかってくれた。
- どこまでリサイクルやエコができるか。
- とても楽しかった。海のゴミについても学んでみたい。
- 妙高と初の話合いで発表するとき緊張したけどちゃんと発表できてよかったです。
- ごみを出さない工夫や生活をしていくことが大切だと感じた。







# 妙高を支える人たち

## 山田時代さんが文部科学大臣表彰

「時代(じだい)くん」の愛称で親しまれている山田時代(やまだ とき)さん(NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会所属)が、長年にわたり国立妙高青少年自然の家発展に寄与された功績を称えられ、このたび社会教育功労者として文部科学大臣から表彰されました。



この表彰は、青少年教育のボランティア活動などに10年以上精励し、功労のあった方に対して行われるもので、山田さんは高校生のときに初めて国立妙高青少年自然の家の主催事業にボランティアとして参加して以来およそ25年間にわたり、主に妙高アドベンチャーの講師として、当施設の活動を支えてくださいました。

文部科学大臣からの表彰状と記念品を国立妙高青少年自然の家所長より手渡され、「これまで活動がすごいと思っただけではないが、長年続けてこられたよかったです。これからも子供の指導で力になりたい」と語っていた山田さん。現在は、家業の傍ら、NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会の事務局長として、妙高アドベンチャー、自然体験活動及びスキーなどの指導者を取りまとめ、当施設に関わる方々との連絡調整役として活躍されています。



▲上:表彰状を手渡す小林所長(右)と山田さん(左)  
下:笑顔の山田さん

## 協賛企業紹介

国立妙高青少年自然の家を応援してくださる企業や団体、地元の商店の皆様には、日頃から子供たちの活動や自然の家の活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

### 令和元年度〜令和3年度

#### 〔協賛金・支援金をいただいた企業〕

有限会社アイピーオート、朝日酒造株式会社、一般社団法人アトリエ 村山陽、有限会社イシノ、株式会社伊藤園上越営業所、伊那美装株式会社、ウチダスポーツ、株式会社内山ホーム、株式会社エース電子、えちご上越農協山支店、えちごトキめき鉄道株式会社、岡本石油、株式会社雲田商会、株式会社グローバルアセットモーションズ、頸南バス株式会社、株式会社謙信堂、高坂防災株式会社、公孫上越地区生涯学習研究協議会、コーエイ株式会社妙高営業所、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社V.M新潟支店、国際自然環境アウトドア専門学校、有限会社小島スポーツ、小山株式会社新潟営業所、有限会社シロキヤ、新星建機工業株式会社、新東産業株式会社上越支店、株式会社スノーピーク、株式会社スワロースキー、関山郵便局、セビオスポーツ上越店、セブイレブ妙高関山店、株式会社第1印刷所上越支店、株式会社高館



組、有限会社中央モーターズ、株式会社桐朋、永田印刷株式会社、新潟県学校スキー研究会、新潟サンリン株式会社、新潟みらい建設株式会社上越営業所、株式会社西脇電気商会、株式会社ツッコトラスト、日本曹達株式会社二本木工場、株式会社パーソプロダクション、株式会社白星社、株式会社橋詰商会、株式会社浜田材木店、原通郵便局、株式会社深松組上越営業所、株式会社藤田建設、株式会社丸山酒造場、妙高カントリークラブ、妙高建設株式会社、妙高市校長会、妙高小学校、株式会社 mont-bell、有限会社安田商会、有限会社山田損保事務所、株式会社横瀬オーティオ、ろつきん新井支店、株式会社渡辺リネン

### 〔寄附物品などのご支援をいただいた方々〕

株式会社伊藤園上越営業所、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社上越支店、(50音順・令和4年2月末現在)

## 妙高での挑戦と繋がり

私は大学生活の4年間、国立妙高青少年自然の家でボランティアとして活動してきました。大学1年生のときは遠慮がちで人見知りをする性格でしたが、ボランティアを通して、たくさんの子供たち、妙高や他施設のボランティアの仲間たち、指導者の方々、職員さんとお会い、刺激を受けて、成長することができました。現在は、何事にも積極的に挑戦し、様々な人との関係を深めることができるようになりました。

新型コロナウイルスが猛威を奮い、子供たちや一緒に高め合ってきた仲間たちに会うことができない状況が続き、当たり前だと思っていた人との繋がりの大切さを改めて実感することになりました。

今後は、教員として毎日子供たちと関わっていきます。どんな課題に対しても挑戦する気持ちを持ち続け、人との繋がりを大切にして、成長し続けたいと思います。



上越教育大学 学校教育学部4年 新田 麻琴(にった まこと)さん



信州大学 教育学部1年 清水 心奈(しみず ここな)さん

## ボランティア活動で得たもの

私は大学生になってからボランティアを始めました。法人ボランティアとなつた当初は、私でも何か役に立てることがあるのではないかとわくわくしていました。

私がボランティア活動の経験によって得たものはたくさんあります。ひとつ挙げるなら自分に自信がつき、以前よりも意欲的に行動できるようになったことです。

キャンプの企画を考える活動では、子供の姿を想像しながら意見を出し合いました。キャンプ当日、楽しそうな子供たちの様子を見ると、胸がいっぱいになりました。このとき、これまで感じたことがないような気持ちになりました。

これからもボランティアを続けていくことで、たくさんの人と関わり、経験を積みたいのです。そして、その経験を将来に生かしていこうと思っています。

## 〔編集後記〕

今年度はまさに、俳聖松尾芭蕉の示す「不易流行」の意味を強く感じた年でした。「いつまでも変わらないものの中に新しい変化を取り入れることを指す言葉で、新しさを求めて変化をすること自体が、世の常であるということ」です。

開所30周年を迎え、いつまでも変わらない概念を再確認しました。それは、いつも親身に支えてくれる地域の皆様や初代所長をはじめ歴代職員の皆様のことです。原野のツルを手繰り体験活動の環境を構築しました。現在は子供たちの歓声が響く場所となっています。

併せて、リスタートの年です。本誌に様々な事業報告がありますように、施策や社会課題のニーズを捉え新しい発想を大切に事業展開しております。今後も引き続き、地域の皆様と共に歩み進化する妙高をよろしく願っています。

国立妙高青少年自然の家 次長 室井修一

## ホームページが新しくなりました!



国立妙高青少年自然の家では、広報活動の強化と利用者の方に知りたい情報がいち早くわかるようにすることを目的にホームページのリニューアルをしました。ぜひご覧ください。

また、Instagram Facebook YouTubeを開設していますので併せてご覧ください。

今後とも国立妙高青少年自然の家をよろしく願います。



<https://myoko.niye.go.jp/>

国立妙高

検索